科目名	臨床薬理学	講師	非常勤講師
履修時期	2年　前期	単位数	1
		時間	30

＜科目設定理由＞

薬物療法において、看護師は医師が処方した薬物を正しく患者に与薬するといった診療の補助者としての役割がある。医療技術の進歩に伴う看護の専門分化・高度化と在宅医療の推進による看護師の役割拡大にに伴い看護師には薬物療法に関する、正確でかつ高度な知識・判断が求められるようになった。しかし、医療現場のヒヤリハットは与薬に関わる事象が多く、このことからも看護師は与薬に関する正しい知識の習得が不可欠といえる。

医療の現場では看護師が患者に直接与薬することが多い。看護師は24時間患者の身近にいる存在であるため治療効果や副作用の出現の有無を最も眼前で観察できる職種である。

そこで、今日の医療現場で行われている薬物療法の実際を通し、そこで扱われる薬剤に関する知識や技術を習得することをねらいとしてこの科目を設定する。そして、この「臨床薬理学」で習得した知識・技術は、薬物を正しく安全に患者に適用し、患者の生活の質を向上させるための看護を考える基盤となることを意識しながら学習を進めてほしい。

学習目標	1. 薬物作用と薬物動態を理解する 2. 各種薬剤の臨床応用及び副作用を理解する 3. 薬剤投与後の身体の変化を理解する
学習内容	1. 総論 1）薬理学とはなにか 2）薬理学の基礎知識ー「薬はなぜ効くのか」 2. 各論 1）対症療法の臨床薬理学①ー「胃が痛い」…胃薬をのむと胃痛がおさまるのはなぜ？ 2）対症療法の臨床薬理学②ー「頭が痛い」…頭痛薬をのむと頭痛がおさまるのはなぜ？…**演習** 3）循環器系に作用する薬物 4）呼吸器系に作用する薬物 5）消化器系に作用する薬物 6）内分泌・代謝系に作用する薬物 7）中枢神経系に作用する薬物 8）末梢神経に作用する薬物 9）抗感染症薬 10）抗がん薬 11）抗炎症薬ーステロイド薬はなぜ効くのか、なぜ副作用がおきるのか…**演習** 12）まとめ
授業形態	講義・実験・グループワーク
評価方法および評価の観点	筆記試験
テキスト	系統看護学講座　専門基礎　疾病の成り立ちと回復の促進③　薬理学　（医学書院）
参考資料・図書	必要時提示する
履修上の留意事項・受講条件	特になし